

## 主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

## 理 由

弁護人間宮三男也の上告趣意について。

所論の要旨は、被告人が本件事実をはじめより一貫して否認し、これについてな  
るほどと思わせる弁解をしているにもかかわらず、原審はこれを取り上げなかつたの  
は当裁判所の判例に違反するというに帰する。しかし原審の支持する第一審判決挙  
示の証拠を調べてみると、その認定事実は十分に首肯できるところであつて、誤が  
あるとは認められない。そして所論引用の判例の趣旨は、訴訟上の証明の程度につ  
いて判示したものであるから、所論が判例違反を主張する根拠とはならない。結局  
所論の実質は、原審の証拠の取捨判断事実認定を非難するに帰し、刑訴四〇五条の  
上告理由に当らない。

その他記録を調べても同四一條を適用すべき事由は認められない。

よつて同四〇八条、一八一条により裁判官全員一致の意見で主文のとおり判決す  
る。

昭和三〇年一〇月四日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	小	林	俊	三
裁判官	島			保
裁判官	河	村	又	介
裁判官	本	村	善	太 郎
裁判官	垂	水	克	己